

NPO 緑の会

特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791

国際交流で来日中の外国人七人が「生ごみ堆肥化施設」を視察

7月22日、国際交流で来日中のスイスのカトリーヌさん（50歳・主婦）をはじめフィランドのイルツカさん（20歳）らアメリカ、フランス、デンマーク、カナダの学生7人が、我が「生ごみ堆肥化施設」を視察に訪れました。

この一行はワールドキャンプスイスターナショナル主催の国際交流で世界15ヶ国から来日、「とりでホストクラブの会（飯村淳子会長）」の会員宅に宿泊しているメンバーで、この日は午前中取手市白山で盆踊り、稻小学校の元気サロンを視察した後、午後一時半から堆肥化施設を視察に訪れたもので、この後もポニーの家を訪問するなど過密なスケジュールをこなしていました。



来訪した国際交流の7人

一行は、DVDで「NPO緑の会」の活動概要を視聴した後、堆肥化施設を見学し、7月27日に日本橋川で行われる「橋洗い」行事の際、投入される「EMだんご」づくりに挑戦しました。



DVDに見入るメンバー



応援に駆けつけた会員、会友約20人と共に土の入った容器を車座に囲み、材料を見て最初は気持ち悪そうな表情でしたが、会員に促され土を手にして、ようやくだんごの状態に丸めて完成させていました。EMは世界55ヶ国でも製造されており、環境や農業など様々な分野で活用されています。

平成21年度から「生ごみ堆肥化事業」常総環境センターからの委託事業に移行することを決定

NPO緑の会は、現在取手市から1050世帯の生ごみを回収して堆肥化する事業の委託を受けていますが、平成21年度から常総地方広域市町村圏事務組合（構成市は常総市、取手市、守谷市、つくばみらい市でその総人口は24万8千人）が運営する守谷市野木崎の「常総環境センター」から委託を受けることに移行することが正式に決定しました。



新設された「生ごみ堆肥化施設」



できたEMだんごと皆さん

ですが、今回の視察がきっかけとなり、地球規模の環境改善に繋がっていくことを期待したいものです。

「常総環境センター」では規模を縮小した焼却炉の立替を計画していますが、この計画に関連して、センターに隣接された「生ごみ堆肥化施設」が本年4月に建設されたことを受けて決定されたものです。常総地方広域市町村圏事務組合では、平成20年度の生ごみ処理について、常総広域圏全体で2000世帯、その後3150世帯、4250世帯、5450世帯、6550世帯と徐々に増やし最終的に1万世帯に協力を求めることを

NPO法人「エコクリン常総」では、週2回戸別回収、施設の規模は1日当たり処理



施設の破袋分離機

取手市の生ゴミはNPO緑の会がこれまで同様に担当しますが、その他は、NPO法人「エコクリン常総」(宇佐美聡理事長)が新設の「生ゴミ堆肥化施設」で運営を担当することになります。



施設の投入ホッパー

目標としています。



外堀:法政大学の皆さんと

私たち「NPOみどりの会」も「常総環境センター」管理下で新たな効率的な堆肥化を模索しながら、取手市全世帯の生ゴミ堆肥化を目指して努力していく必要があります。



施設の脱臭装置

能力は3.8tで、処理方法は好気性の種菌で発酵させ堆肥化します。できた堆肥は協力世帯の希望者に配布するか、各市公園の樹木などに利用することになっているとのこと

7月24日には外堀の1つ飯田堀で2回目となる浄化活動が同会をはじめ法政大学・SOTOBORICANAL WUNDERの学生や近隣企業からも多数参加、水面にボートを浮かべて飯田堀に一万五千個のEMだんごが投入された。



外堀:ポートからダンゴ投入

名橋「日本橋」保存会の呼びかけで始まった東京・日本橋川のEMによる水質浄化活動は、当初の「日本橋川に清流をよみがえらせる会」から「日本橋川・神田川に清流をよみがえらせる会」(林勇会長)に再結成され、活動領域を拡大して浄化活動を順調に展開しています。

日本橋川の水質浄化活動 「日本橋川 神田川に清流をよみがえらせる会」 に再結成され活動領域を拡大

行事に先立って行われたEMだんごの投入には、かねてよりEMだんご製作に協力している茨城県石岡市の視覚障害者更生施設「光風荘」の皆さんも招待されEMだんごの投入を行いました。



橋洗いの様子

例の「名橋日本橋洗い」イベントが30度を越す猛暑日の中、橋を埋め尽くすほどの参加者で行われました。



勢揃いしたNPO緑の会一行



報道陣に囲まれた光風荘の皆さん



リフト車から看板を洗う子供たち